

アソカ講話088

テーマ「行動の規範は不変」

人は地位や名誉が上がってくると、いとも簡単に普通の考えができなくなるらしい。先生や～長と呼ばれる職種の人に、先生と呼ばず名前を呼ぶと、多くの人が怪訝そうな顔または、不機嫌になる。

また、地位や名誉ができてくると、そのような扱いを受けなければ機嫌を損ね、上から目線でものを言うようになる。専用の駐車場、送迎、ていねいな挨拶、特別扱い・・・数えればきりが無いほど、気を使われることが当然のようにふるまうようになる。

やはり、どんなに地位や名誉ができようとも、行動の規範は普通であることが大切なことだと思う。本物は普通のままである。鍵山秀三郎氏は、上場の会社を作り、全国の講演に呼ばれるようになって、挨拶は誰にでもどんな時も同じ挨拶である。また、普通に公共の交通機関に乗り、秘書に鞆を持たすのではなく、自分で持ち歩く。地位や名誉や肩書によって規範が変わらない。判断の基準が普通だからだ。ここに本物、人の理想とする生き方を体現している人がいる。私自身も時折、普通の職員の発想ではない、施設長という権限の発想をしてしまっている自分に気づき反省することがある。

心して戒めていかなければ、普通を失うのは早い。